

学年	教科	科目	教科書名	副教材名
中2	社会	歴史的分野	中学生の歴史(帝国書院)	グラフィックワイド 歴史(とうほう)

### 1 授業のねらい

- (1) 歴史的事象に対する関心を高め、日本の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解する。
- (2) 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解する。
- (3) 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解し、日本と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考える。
- (4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、様々な史料・資料を通して考察する能力を育む。

### 2 授業のすすめ方

- (1) 講義型授業とアクティブラーニング型授業を併用して授業を行います。

#### ①講義型授業

基礎的知識の確認と定着を図るためのもので、電子黒板等を用いて授業を進めます。共通のプリントを配信予定ですが、プリントの内容を暗記するのではなく、歴史の流れを理解することに努めてください。また、理解度を確認するために、随時スタディサプリなどを用いた問題演習を行います。

#### ②アクティブラーニング型授業

タブレット端末を使用した調べ学習や、グループワークを行うことで、思考力や表現力を培います。

### 3 学習上の留意点

- (1) 歴史は科学です。原因・過程・結果の積み重ねが、教科書にまとめられています。人物名・事件名・年号などを暗記することも大切ですが、歴史事象の背景を理解することによって、歴史的思考力を養うことができます。授業ではそのことを意識してのぞんでください。
- (2) 教科書は、様々な史料・資料をもとにして書き上げられています。歴史を理解するためには、史料の読解を欠くことはできません。授業中には、適宜史料を用いて、史料の読解力を身につけることをめざします。
- (3) 中学校の歴史の授業では、世界史の分野も扱います。同時代の日本と世界の動きを別のものと捉えるのではなく、「世界の中の日本」を常に意識して授業に取り組みましょう。
- (4) インプットした知識は、何度も繰り返しアウトプットすることで自分のものになります。他者との対話や問題演習を通して、知識のアウトプットに努めてください。
- (5) 資料集は授業で活用します。授業時には必ず持参してください。テスト前には必ず授業時に扱った史料・資料はもちろん、写真・地図・脚注にも目を通しておきましょう。

### 4 副教材・参考文献

- (1) グラフィックワイド歴史(とうほう)
- (2) ニュース時事能力検定 公式テキスト&問題集 基礎編3・4級 2024 (毎日新聞出版)

### 5 評価方法

- (1) 成績は、学期ごとに定期考査の得点と、授業中の作業・問答・態度などを総合して評価し、平常点1学期40点、2学期40点、3学期20点とします。
- (2) 定期考査・平常点をもとに「知識・技能」、「思考・判断・表現」「主体的に取り組む態度」の3観点について学年末に評価します。

### 6 定期考査

定期考査は、主に授業で扱った内容から出題します。毎回の授業に集中してのぞんでください。

7 指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一 学 期	四月	第1部 歴史のとらえ方と調べ方 第1節 歴史の流れと時代区分	定期考査 授業姿勢 ノートの状況 宿題	人類誕生とその後の古代文明の誕生、日本列島の農耕への生活の変化、更に東アジアとの関わりを通して国家が形成されていく過程を理解する。  武士が台頭し武家政権が成立したことから、その後の武家社会における変動を理解させると共に、武士や民衆の活力を背景とした文化の特色について考えることができる。
	五月 六月 七月	第2部 歴史の大きな流れと時代の移り変わり 第1章 古代国家の成立と東アジア 第1節 人類の登場から文明の発生へ  第2節 東アジアの中の倭（日本） 第3節 中国にならった国家づくり 第4節 展開する天皇・貴族の政治  第2章 武家政権の成長と東アジア 第1節 武士の世の始まり 第2節 武家政権の内と外 第3節 人々の結びつきが強まる社会  夏期休暇課題		
二 学 期	九月	第3章 武家政権の展開と世界の動き 第1節 大航海によって結びつく世界 第2節 戦乱から全国統一へ 第3節 武士による支配の完成	定期考査 授業姿勢 ノートの状況 宿題 課題レポート	戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航による影響、織豊政権による統一事業を通しての社会・政治の変化、江戸幕府成立とその政治の動向ならびに産業・交通の発展による町人文化の開花を理解する。  ヨーロッパにおける市民革命や産業革命を経た欧米諸国のアジアへの進出を背景に、開国とその影響について考えることができる。  明治維新の経緯、新政府によって近代国家の基礎が整備されたこと、自由民権運動から憲法制定、政府による富国強兵政策推進による産業の発展を理解できる。
	十月 十一月 十二月	第4節 天下泰平の世の中 第5節 社会の変化と幕府の対策 第4章 近代国家の歩みと国際社会 第1節 欧米諸国における「近代化」  第2節 開国と幕府の終わり 第3節 明治政府による「近代化」の始まり 第4節 近代国家への歩み 第5節 帝国主義と日本 第6節 アジアの強国の光と影  冬期休暇課題		
三 学 期	一月 二月 三月	第5章 二度の世界大戦と日本 第1節 第一次世界大戦と民族独立の動き 第2節 高まるデモクラシーの意識 第3節 戦争に向かう世論 第4節 第二次世界大戦の惨禍  第6章 現在に続く日本と世界 第1節 敗戦から立ち直る日本 第2節 世界の多極化と日本の成長 第3節 これからの日本と世界	定期考査 授業姿勢 ノートの状況 宿題 課題レポート	第一次世界大戦前後の国際情勢のあらまし、及び国民の政治的自覚の高まりについて理解する。  昭和初期から第二次世界大戦の終結までの政治・外交、アジア諸国との関係、欧米諸国の動き、軍部の台頭から戦争までの経過を理解できる。  第二次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程や国際社会への参加について、世界の動きと関連させて理解できる。

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により省略や前後する可能性があります。